

【入選（中央審査）】「水の作文大賞」

救う水、奪う水

熊本県 嘉島町立嘉島中学校

二年 金子 夏歩

水はあなたを救いますか。あなたから何かを奪いますか。

「水の郷」と呼ばれる嘉島町に住んでいる私は水に救われたことしかありません。贅沢なことに、嘉島町のほとんどの家では蛇口をひねればおいしい地下水が出てきます。他にも天然プールや浮島神社があり、嘉島町はとても水に恵まれています。そんな水に恵まれている私も学校で行なわれる水についての授業や町内に貼られている水のポスターなどを見て、水の大切さは分かっていました。しかし、数か月前、その水の大切さを身をもって実感する出来事がありました。中学一年生の一学期を全力で駆け抜けた私は、二学期後半から突然、朝起きることが辛くなり頭痛に悩まされ今までできていた勉強や運動が思うようにできなくなりました。病院に行くと「起立性低血圧」と診断されました。この病気は急に立ち上がった時や起き上がった時に血圧が低下し、立ちくらみやめまい、頭痛などが起きる病気です。私も実際に血圧の検査を行った結果、血圧が正常の半分程しかなく、脈は正常の2倍程ありました。私は良くなりたいたい一心でウォーキングや筋トレ、ストレッチ、マッサージ、塩分摂取などをするように心がけていました。しかし、思うように回復することはありませんでした。そこで病院の先生に相談すると「水分補給が何よりも大切だ。」と言われました。一日に必要な水分量は健康な人で2Lぐらい私の場合だと2・5Lぐらいだそうです。最初は「健康と水って関係あるの?」と思っていましたが、水を意識して、飲みはじめてから、体の調子がよくなりました。厚生労働省によると水の摂取量が十分であることで熱中症や脳梗塞、心筋梗塞など様々な病気を引き起こすことがあるそうです。その予防にはこまめな水分補給が欠かせないそうです。まさに、水は命を救ってくれるものです。

では、本当に如何なる場所でも命を救ってくれるものなのでしょうか。

世界に目を向けてみましょう。ユニセフによるとアフリカ諸国を中心に毎日800人、年間30万人の子どもが水によって命を奪われているそうです。命を救ってくれるはずの水がなぜ命を奪うのでしょうか。それは「汚れた水」が原因です。子どもたちの多くは池や川、整備されていない井戸など、日本では到底飲むことなど考えられないような水源に頼るしかないそうです。やっとの思いで手に入れた水も多くの場合、泥や細菌がたくさん混じっていて、それを飲むとたちまちお腹をこわして命を落としてしまうこともあるそうです。このことを知り、不衛生な水しか飲むことができない国で、私と同じように水が必要な病気を患っている人たちのことを思うと胸が痛くなりました。水の持つ「光と影」を知り、衝撃を受けました。

では、私たちに何ができるのでしょう。それは「救う水」を大切に使い、後世に水の持つ「光」の部分を受け継ぐことではないでしょうか。私が水分補給を意識するようになり気付いたことがあります。それは、水を使う時の意識を変えれば、水を大切にできることです。ペットボトルの水を飲む時は残りの量がひと目で分かるので大切にします。しかし、手洗いや歯磨きの水は「少しぐらいいいだろう。」とついつい流したままにしがちです。1分間水を流したままにすると、2Lペットボトル6本分も水が無駄になります。だから、私は頭の中に「想像のペットボトル」を持つようになりました。そうすることで、目に見える形で水の大切さを実感することができました。今、自由に使っている水は私たちだけのものではありません。世界のみんなの水であり、未来の水でもあるのです。

みなさん、頭の中に「想像のペットボトル」を持ち、限りある水を大切に守っていきましょう。